

家大人に別れ奉る

抄

(東行前日記) 安政六年五月二十三日(一八五九)

三十歳

二十三日

奉_レ別_ニ家大人_一

家大人に別れ奉る

平素趨庭違_ニ訓誨_一
其行独識慰_ニ嚴君_一
耳存文政十年詔
口熟秋洲一首文
小少尊攘志早決
蒼皇輿馬情安紛
温清剩得留_ニ兄弟_一
直向東天掃_ニ怪雲_一

平素、趨庭訓誨に違ひ、
其の行 独り識る 嚴君を慰むるを。
耳には存す 文政十年の詔、
口には熟す 秋洲一首の文。
小少より尊攘 志は早くに決し、
蒼皇たる輿馬 情安んぞ紛せんや。
温清剩し得て 兄弟に留め、
直ちに東天に向ひて 怪雲を掃はん。

[吉田松陰の名文・手紙を読む](#) [【目次】](#) [ページへ戻る](#)

[吉田松陰.com](#) [トップページへ](#)